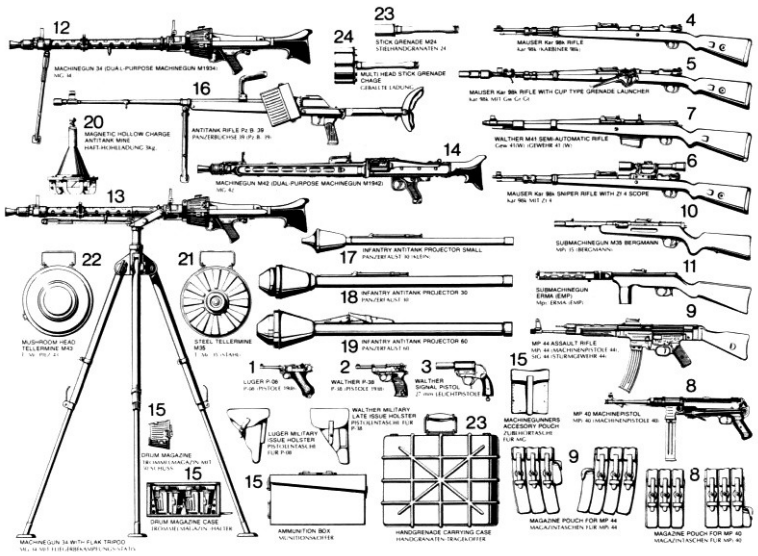
ITEM 35111

GERMAN INFANTRY WEAPONS SET

1/35 MILITARY MINIATURE SERIES NO.111 ドイツ・小火器セット

TAMIYA



①ルガーP－08は、ドイツによって1908年制式となった軍用拳銃で、ボチャートの設計した原型を、G・ルガーが改良した拳銃です。特色は尺取り虫運動をする遊底の構造です。第一次、第二次大戦ともに大量に使用されましたが、第二次大戦中は、下士官、戦車兵、憲兵などによって使用されました。

②ワルサーP－38は、構造的に複雑であったルガーP－08に代り、下士官、兵用の官給拳銃として1938年に制式となりました。設計は、カール・ワルサー社で行なわれ、ダブルアクションを備えた連射性能が特色です。1942年、ルガーP－08の生産が打ち切られてからは、下士官、戦車兵、落下傘部隊などに支給されて使用されました。

③ワルサー信号拳銃は、カール・ワルサー社で設計された単発式、中折れの拳銃で、空中に信号弾や照明弾を撃ち上げる為の拳銃です。信号拳銃としては、第二次大戦前から使用されましたが、1942年頃からは、銃身内にライフルの付いた榴弾発射用の同型拳銃も生産されて、歩兵、工兵、戦車兵などの連絡用として広く使用されました。

④Kar 98k は、1898年、パウル・モーゼルによって設計されたボルトアクション小銃の発展型です。1924年、短小型スタンダードが完成され、ドイツ軍は1935年に制式Kar 98kとして採用しました。第二次大戦中は、ドイツ軍の制式小銃として、すべての地上部隊兵士によって使用されました。

⑤ライフル榴弾発射器付きKar 98k は、分隊単位で利用される兵器です。銃口の榴弾発射器は、銃から容易に取り外すことが出来ます。榴弾は、砲弾型をしており、発射器の口から差し込み、銃に宇砲を装填し、これによって発射します。使用は1941年頃から行なわれ、歩兵、工兵、落下傘部隊などで使用されました。

⑥Kar 98k 狙撃銃は、4倍のアジャックススコープ付き小銃で、第二次大戦中に最も一般的に使用されました。この小銃は、着脱式のスコープをKar 98k レシーバー側面に備えており、歩兵では小隊単位で、落下傘部隊では分隊単位で支給され、敵の機関銃手や指揮官を狙撃する目的に使用されました。

⑦ワルサーG－41 自動銃は、歩兵火器の自動化を図ったドイツ軍によって制式となった小銃です。1943年に改良型G－43が出現するまで、特に東部戦線で使用されました。工兵や落下傘部隊など最前線の部隊では、自動火器の不足を補う目的で使用され、一部はスコープ付きの狙撃銃に改修されました。

⑧MP40短機関銃は、下士官就装用に制式となったサブマシンガンで、落下傘部隊などの特殊部隊用に設計されたMP38の改良型です。MP40は、プレス加工と電気溶接により大量生産向けに設計され、歩兵下士官、前線士官、戦車兵、車輌運転手、保安部隊、工兵、落下傘兵などに広く使用されました。弾倉ケースは、ごく初期には黒皮製でしたが、戦争中には、サンド色と濃緑色の布製が支給されて使用されました。

⑨MP44突撃銃は、MP43、StG44などとも呼ばれる短小小銃弾を使うサブマシンガンを強化した兵器で、ドイツ軍は将来このMP44による歩兵小火器一本化を計画していたと伝えられます。1943年以降、前線の地上部隊に渡され、Kar 98k等と共に使用されました。陸軍、武装親衛隊、空軍の地上部隊などで使用され、特に1944年以降、数を増しました。弾倉ケースは布製で、サンド色と濃緑色の２種が知られています。

⑩ベルグマン短機関銃M35は、ドイツのセオドー・ベルグマンにより設計され、ユンカー＆ルー社で生産された短機関銃です。ドイツ陸軍によっても一部使用されましたが、主に武装親衛隊や警察によって広く使用されました。９mmのP－08やP－38と同一の弾薬を使い下士官の武装に利用されました。

⑪エルマ短機関銃EMPは、エルマ社によって開発され、輸出用に生産されたサブマシンガンです。第二次大戦が始まると、武装親衛隊、警察部隊、空軍地上部隊が制式として使用しました。特色としては、銃床下面に突出した保持グリップで、これは発射中に銃を安定させるのに役立ちます。

⑫MG34機関銃は、1938年にドイツで制式となったいわゆる万能機関銃です。二脚を装備した状態で軽機関銃、三脚を付ければ重機関銃や対空機関銃になり、又、車載型に転用も可能で、さらに特殊銃架に載せれば双連対空機関銃にもなります。基本型MG34は、ドラム型弾帯装填ケースを付けければ一人で運搬、射撃が可能です。

⑬対空三脚架付きMG34機関銃は、対空射撃を専用に行なう装備で、基地周辺などの自衛用に使用されました。軽機としての使用と同じくドラム型弾帯装填ケースを装着すれば、兵員一名で射撃が可能でした。弾帯のみを使用する場合、弾薬手が弾帯を保持した方が給弾不良を起こし難いといわれます。

⑭MG42機関銃は、MG34の性能をそこなう事なく、より大量生産向けに再設計された機関銃です。MG 34が旋盤加工で製造されたのに比べてMG42は、プレス加工が多用されて製造されました。MG42には、MG34の付属品がほとんど転用できました。MG42の使用は1943年から始められました。

⑮MG34とMG42には、共通の付属品が使用されました。50発ずつ装填された金属製の弾薬帯は、ドラム型の弾帯装填ケースに収容され、この弾帯装填ケースは２個を金属製のケースに収容する事が出来ました。一般に使用する場合は、50発の弾薬帯を５個連結し、250 発として弾薬箱に収納し、銃へ給弾して発射します。機関銃手は、ベルト右側に黒皮製の機関銃手入れ用具ケースを装着しています。

⑯Pz．B．39対戦車ライフルは、1939年に制式となった小口径の対戦車ライフルで、車内の兵員の殺傷を目的に設計されました。300 m て約25mm、20度の傾斜の装甲板に対して約20mmの貫通能力を持っています。しかし、その後、戦車の装甲が厚くなった為、1943年頃からその姿が減少しました。

⑰パンツァーファウスト30クラインは、使いすての個人用対戦車ロケット弾です。これは、ドイツ軍ではクレッチェンと呼ばれて、30ｍ までの射程を持ち、1943年末頃から使用され始めました。ドイツの発表では、最大 140 mmまでの装甲に効果があると言われました。

⑱パンツァーファウスト30は、ドイツ軍でファストパトローネ２と呼ばれ、クレッチェンに比べて大型の弾頭部を備えています。ドイツ側の発表によれば、最大 200mmまでの貫通能力を持っていると言われました。使用は、前方の板状部品を起こして照準器に利用し、発射します。

⑲パンツァーファウスト60は、クライン、30等の旧型の発射レバーを改良し、より安全性を高めた兵器で、射程も60ｍ まで延びました。さらに同型で、100 ｍまでの射程を持つものもあります。威力は旧30型と等しく、200 mmまでの装甲板に効果があり、歩兵師団と山岳師団の各中隊に36個、対戦車中隊に18個、砲兵大隊に18個、その他の各中隊に18個の計2000個が支給されました。戦車搬弾兵には師団で計1800個、戦車師団には1000個が、支給される計画でした。

⑳ホローチャージ吸着爆雷は、基部に６個の磁石を備えた対戦車爆雷で、兵士が戦車に接近、車体に吸着させて発火させます。先端に4．5秒の遅発信管B．Z．E．が付属しており、兵士は車体へ吸着させた後、退きます。これを防ぐ為に、戦車は車体にコーテイングを施し、磁石が利かない様工夫しました。

㉑M35地雷は、1935年に制式となり、第二次大戦中に各戦線で最も広く使用された地雷です。通常、濃緑色に塗装されていました。特色は表面の凸凹のカバーで、側面には運搬用のワイヤー製ハンドルが付属していました。

㉒M43地雷は、1943年にドイツによって制式採用された埋没型地雷です。中央部突起内に雷管を装着でき、側面や下面にも信管の装着が可能で、擬装爆薬としても利用できます。

㉓柄付き手榴弾M24は、第一次大戦からドイツ軍が使用してきた伝統的な型式の手榴弾です。M24自体は、1924年に改良されて制式となった兵器で、第二次大戦中、各地上部隊で広く使用されました。兵士は、ベルトやブーツに差し込んで持ち運びましたが、大量の運搬は、金属製のケースに14個を収納して行ないました。雷管は、木製の柄の内部にあり、キャップを外し、内部のコートを引いて発火させます。爆発は、発火後４～５秒後でした。

㉔集束装薬は、７個のM24手榴弾を針金で締めつけて集合させ、対戦車や陣地攻撃用に強化した爆薬です。この集束装薬は、中心の１個を除き、他の６個は柄が取り外されて使用されました。中心部の１個の柄を外し、加圧式信管を装着すれば、代用地雷としても利用できました。　（協力：床井雅美）



各兵器の使用期間	1939	1940	1941	1942	1943	1944	1945	
ルガーP-08 拳銃	■	■	■	■	■	■	■	前線部隊の士官、下士官の常装備
ワルサーP-38拳銃				■	■	■	■	〃　（1942年以降の標準）
ワルサー信号拳銃	■	■	■	■	■	■	■	戦車兵の車内装備品
モーゼルKar98k小銃	■	■	■	■	■	■	■	全兵種で使用
ライフル榴弾発射器付きKar98k			■	■	■	■	■	戦車擲弾兵、落下傘部隊から使用開始
モーゼルKar98k狙撃銃		■	■	■	■	■	■	落下傘部隊と歩兵の狙撃兵が主に使用
ワルサーG-41自動銃			■	■	■	■	·····	1943年以降、陸軍工兵、落下傘部隊で限定使用
MP40短機関銃			■	■	■	■	■	前線部隊の下士官の常装備、戦車兵の車内装備品
MP44突撃銃					■	■	■	東部戦線後期から使用開始
ベルグマン短機関銃M35		■	■	■	■	■	■	武装親衛隊のポリツァイ師団が主に使用
エルマ短機関銃EMP		■	■	■	■	■	■	後方部隊が主に使用
MG34機関銃	■	■	■	■	■	■	■	全戦線で使用
MG42機関銃				■	■	■	■	アフリカ戦線の末期から使用開始
Pz.B.39対戦車ライフル	■	■	■	■	■	■	·····	東部戦線初期まで主に使用
パンツァーファウスト30クライン					■	■	■	戦車擲弾兵が主に使用
パンツァーファウスト30					■	■	■	全地上兵科で使用（特に1944年に使用）
パンツァーファウスト60						■	■	民間防衛隊でも多用
ホローチャージ吸着爆雷				■	■	■	■	戦車擲弾兵が多用
M35地雷	■	■	■	■	■	■	■	工兵、歩兵が使用
M43地雷					■	■	■	工兵、歩兵が使用
柄付き手榴弾M24	■	■	■	■	■	■	■	全地上兵科で使用

太線：大量使用　細線：細小使用　点線：生産中止

《小火器セット組立て図》　各部品の塗装はパッケージを参考にして下さい。

